

時間割コード	G1B30020	開講年度	2026				
授業題目	現代社会における人権					担当教員	小池 洋平
英文授業名	Human Rights in Contemporary Society						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	全
講義室	共通教育1 2 講義室		授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
	大学D P				⇔	① 基本的人権について正確な基礎知識を習得し、それを他者に説明できるようになる。 ② 基本的人権を出発点として、社会で実際に起こっている人権問題について、 妥当な解決策を主体的に探究することができる。	
	学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力						
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	この授業では、基本的人権に関わる時事問題などを素材とし、基本的人権の視点からそこに含まれる問題点を浮かび上がらせ、みなさんと解決方法を考えていきます。 まず、現代社会で生じている人権問題を概観した上で、基本的人権の基本的コンセプトを解説します。そして、平等や思想・良心の自由などに関する時事問題を取り上げ、それら問題の背景と論点を提示しつつ、人権の観点からいかなる解決策があるのかを探究します。 ※ 2026年度は「対面回」と「オンライン回」が混在します。特に「（4）授業計画」と「（8）履修上の注意」欄をご確認ください。						
(5)授業のキーワード	人権，憲法，憲法訴訟，時事問題，課題発見・解決，論理的思考						
(6)授業計画	第1回 イントロダクション：現代社会で生じている人権問題とは？【対面】 第2回 基本的人権というコンセプト【オンライン】 第3回 人権の限界はどこにあるのか？【対面】 第4回 法の下の平等(1)平等って何だろう？【オンライン】 第5回 法の下の平等(2)平等を巡る人権問題【対面】 第6回 ココロと自由(1)思想・良心の自由って何だろう？【オンライン】 第7回 ココロと自由(2)思想・良心の自由を巡る人権問題【対面】 第8回 表現活動と自由(1)人間にとって表現とはどんな意義があるのか？【対面】 第9回 表現活動と自由(2)表現の自由を巡る人権問題【対面】 第10回 経済と人権(1)財産権【対面】 第11回 経済と人権(2)貧困と人権【対面】 第12回 身体と自由(1)奴隷的拘束からの自由【対面】 第13回 身体と自由(2)勝手に拘束されない自由【対面】 第14回 憲法に書かれていない人権（1）自己決定権【オンライン】 第15回 憲法に書かれていない人権（2）プライバシー権／授業アンケート【対面】 第16回 期末試験【対面】 ※ 社会状況を踏まえて、授業内容／計画を変更することがあります。						
(7)成績評価の方法	平常点（45点満点）と期末試験（55点満点）を総合して成績を評価する。 ◇ 平常点の評価方法 授業中に人権に関わる問題を提示するので、それに対する自分の考えをリアクションペーパー、もしくは、ショート・ディスカッションの形で答えてもらう。なお、単に出席しているだけでは加点しないので注意すること。 ◇ 期末試験の評価方法 授業で扱った概念や理論などについての説明問題と、現代社会で生じている人権問題につきどのように考えるかを問う思考問題を出題する（いずれも論述試験）。						
(8)成績評価の基準	下記の基準に従い、合計点が90点以上で「卓越している」、80－89点で「かなり上にある」、70－79点で「やや上にある」、60－69点で「その水準にある」と評価する。 ◇ 平常点の評価基準 授業中に提示された人権問題について、自らの考えを主体的に組み立て、それを他者に提示できている（各回3点×15回）。 ◇ 期末試験の評価基準 ・説明問題の評価基準 ：出題に対応する適切な説明をすることができているか否か（5点満点）。 ：授業で扱った概念や理論などについて正確に理解できているか否か（15点満点）。 ・思考問題 ：出題に対応する適切な論述をすることができているか否か（5点満点）。						

(8)成績評価の基準	：授業内容を踏まえて思考を展開することができるか否か（15点満点）。 ：論理的かつ説得力のある思考を展開することができるか否か（15点満点）。
(9)事前事後学習の内容	この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間の時間外学修が必要となります。 ◇ 事前学修 ・資料を熟読し、分からなかった部分に印を付けておく（毎週1時間）。 ◇ 事後学修 ・資料やノートを見直ししながら、正確な知識が身についているかを確認する（毎週1.5時間）。 ・新聞やTV／ネットニュースなどメディアに目を通し、社会のなかでどのような人権問題が生じているのかを日常的にチェックする（毎日1.5時間）
(10)履修上の注意	この授業では時事問題を多く扱います。日頃からメディアをチェックするのはもちろん、図書館などで積極的に情報を収集するようにしてください。 ■ 2026年度の注意事項 ・この講義は【対面回】と【オンライン回】が混在します。どの回が対面／オンラインかは、上の授業計画をご確認ください。 ・【対面回】については、シラバスに掲示された講義室にて、通常の講義を行います。 ・【オンライン回】については、eALPSに動画を掲載するので、そちらを視聴してください。 ・ハイフレックス型（対面での講義をオンラインで配信し、学生が受講方法を自由に選べる）ではないので、ご注意ください。
(11)質問,相談への対応	・授業前後に教室で質問を受け付けます。気軽に声をかけてください。 ・その他の時間に質問や相談をしたい場合は、メールにて受け付けます。メールアドレスはeALPSに掲載します。
(12)授業への出席	この授業は、すべての回に出席することを前提とします。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「信州大学における授業の出席に関する要綱」第4が定める「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に記載されている方法により補充を受けるための申請を行ってください。 その上で、eALPSに掲載されている連絡先にメールを送り、補充の指示を受けてください。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	参考書については授業中に紹介します。